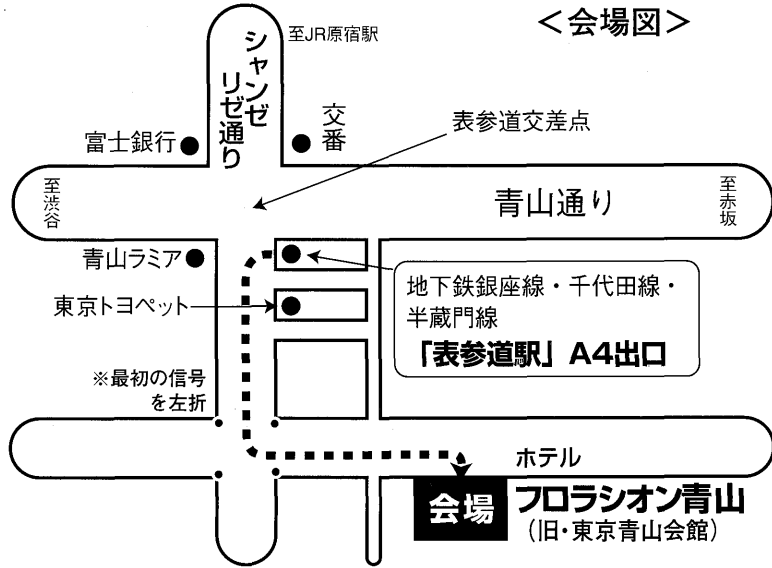


在京白聖會報

第三十一回在京白聖会總會のご案内

今年は五月十二日(金)に開催

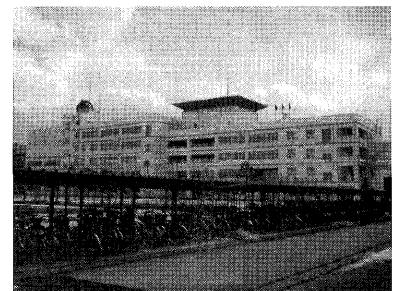
日時；5月12日(金)午後6時
 場所：フロラシオン青山(旧・東京青山会館)
 会費：1万円(年会費含む)
 ※ただし、大学生及び院生は5千円(年会費含む。受付で申し出て下さい)



白聖の城にふさわしい新校舎の玄関

今年は一〇〇〇年という節目、加えて新校舎の完成という母校にとつての大きな慶事が重なりました。したがって、本年はなんとしても

在京白聖会の皆様には、ますますご健勝のことと、お慶び申し上げます。
 さて、新しいミレニアムに入り、初めてとなる第三十一回在京白聖会総会の幹事は、昭和四十三年卒業の我々(四三会)が務めさせていただきます。例年の開催日である創立記念日の五月十三日が今年は土曜日に当たるため、前日の十二日(金)とさせていただきます。会場は昨年と同じく、青山フロラシオ



裏側(旧校舎側)から見た新校舎(この面の2枚の写真/大澤邦雄氏=43年卒=写す)

ンです。ルートについては、上の図をご覧ください。
 今年は母校が誕生して一二〇周年に当たります。明治十三年に礎高くなったまれた盛岡中学はその後、盛岡高校、盛岡一高と校名は変わりましたが、卒業生に脈々と流れている白聖魂は、創立以来、変わるところはありません。昨年暮れには四代目となる校舎も完成し、二十一世紀を担っていく後輩たちの教育環境も万全のものとなりました。今後、岩手、日本、そして世界に羽ばたいて行く俊秀が、我が盛岡から次々と輩出されるものと期待しております。

意義の深い総会にしたいものと考えております。

我が四三会有志は、昨年五月の第三十回総会終了直後から、毎月幹事会をもちまして、今年の総会に向けて準備をして参りました。同窓会という、ともすると若手が集まり難いのが一般的な傾向で、在京白聖会もその例にもれませんが、しかし、本年の会は、節目の年の総会ということでもあり、大先輩から卒業間もない大学生まで、幅広い年代の方々が集まる会にしたいと考えまして、幹事一同智恵を絞っております。総会では、完成間もない新校舎の様子などをビデオで紹介したいと考えております。初々しい新入生諸君の応援歌練習の光景も見ていただくつもりです。

この記念すべき年の総会を成功裏に導くためには、一にも二にも、より多くの卒業生の皆様に御出席いただくことだと考えております。これまで、なんとなく出そびれていた方、出席したいと思っはいたが億劫で出ていなかった方、あるいは、最近、在京白聖会の会員になられた方等、どうぞ、お気軽に顔を出していただければ幸いです。是非とも、本年総会へ出席していただけるよう、重ねてお願い申し上げます。

四三会有志代表 玉澤健児

卒年次	名称	幹事	(〒) 連絡先住所・電話	同期会等
S31	在京白壁31会	松尾 忠良 阿部 克行 小苺米丕美	〒232-0074 横浜市南区永田山王台7-18 045-712-3945 〒261-0011 千葉市美浜区真砂2-23, 9-503 043-279-4707 〒204-0013 清瀬市上清戸2-14-29 0424-93-0504	行事 随時 (ちなみにH10年箱根塔の沢温泉に1泊旅行)
S32	山児会 (事務局は盛岡 在京はなし)	川口 一夫	〒351-0012 朝霞市栄町2-3-46 048-462-9726	有志が機会をつくって招聘。または盛岡の会合に随意出席
S33	在京三三会	綾部祥一郎	〒240-0036 横浜市保土ヶ谷区新桜ヶ丘1-46-16 045-351-4177 shoichiro-ayabe@msn.com	随時在京同期会開催 (最近では1997年。なお、今秋、盛岡で同期会を開催予定)
S35	盛岡一高35年卒在京者同期会	熊谷 高正 立林 基章 福田 浩尚	〒285-0843 佐倉市中志津5-18-6 043-462-3375 〒252-1131 綾瀬市寺尾北3-21-7 046-777-0720 〒270-2253 松戸市日暮58-2 047-367-3208	幹事持ち回りで毎年12月第1金曜日に忘年会を開催
S36	在京36会	村田 順一 間瀬 隆男	〒227-0034 横浜市緑区桂台2-28-12 045-961-6425 〒244-0801 横浜市戸塚区品濃町525-1東の街3-301 045-823-8024	最低年1回主に俳優座観劇会後会食 (同期の立花一男氏が俳優座団員として活躍中)
S38	特になし	荒木田 修	〒104-0061 中央区銀座6-12-2 東京銀座ビル3階 03-3572-5175	
S41	七夕会・二火会	馬場 信	〒101-0025 千代田区神田佐久間町1-11 産報佐久間ビル 産報出版(株)内 03-3258-6411 baba@sanpo-pub.co.jp	原則として毎年7月第1土曜日に七夕会の名称で懇親会を開催他に、隔月第2火曜日、二火会(異業種交流的な勉強会)開催
S42	在京疾風会	船越 巧子 山田 武秋	〒341-0018 三郷市早稲田3-23-4-204 0489-58-0513 fwka9781@mb.infoweb.ne.jp 〒150-0001 渋谷区神宮前3-42-13-401 03-3497-1286 yam-room@netlaputa.ne.jp	年1回程度同期会開催 ※本部(盛岡/代表幹事 渡辺史朗 019-661-7355)は毎年8月14日同期会開催
S43	よんさんかい 四三会	玉澤 健児	〒336-0907 浦和市道祖土2-5-3 048-885-7875	毎年1回(例年1月末~2月初)に同期会開催
S50 (第90回生)	白壁90	佐藤法雄 松坂裕希 水原 滋	〒185-0011 国分寺市南町3-9-25-410 042-322-3950 〒270-1347 印西市内野2-1-2-201 0476-47-3042 yumatsu@pat.hi-ho.ne.jp 〒104-0053 中央区晴海1-7-2-1506 03-3533-5945 xsgmiz@d1.dion.ne.jp	定例同期会 年1回11月開催など

「盛中LB会」命名の由来

昭和27年3月卒業 浅沼一道

昭和二十一年、岩手県立盛岡中学校に入学した我々は、途中、学制改革の嵐の中での生活であった。中学二年に進級したとき、新しく六・三・三の現学制が発足したので、周囲に新制中学が開校した。旧制の盛岡中学では、学制切替に対応するため、新入生の募集をせず、その後は盛岡中学一年は生まれなかった。また、成績不良で落第した者は、新しく開校が発した周囲の新制中学に送られたという。

中学三年でも同様の措置がとられ、中学三年終了時、心ならずも卒業式があり、昭和二十四年四月、通い馴れた同じ校舎に、盛岡高校(このとき、盛岡二高・盛岡三高Ⅱ現盛岡商業Ⅱと三校統合して、以後二年間続いた)一年生として入学した。しかし、この年は新制中学での最上級生は三年だったから、高校の受験はまだなかった。

我々が高校二年に進級したとき、盛岡中学入学以来はじめて下級生が入学してきた。しかも、創立以来はじめて女子生徒が含まれていた。以後は、男女共学で現在に至っている。盛岡中学最後の入学生、最後の卒業生として、男子だけの最後の生徒である、という誇りをいめて「Last Boy」の略称が我々の「LB会」である。ちなみに昭和二十六年、三校統合が解かれ、我々は岩手県立盛岡第一高等学校第一回の卒業生として、昭和二十七年三月に卒業した。入学以来四度の校名変更であったが、卒業以後の校名変更はない。

卒年次	名称	幹事	(〒)連絡先住所・電話	同期会等
S12	白聖51会 (東京支部)	佐藤 吉平	〒182-0012 調布市深大寺東町1-18-2 0424-85-0158	現在は特になし※盛岡の本部は定期的 に年1回集まっている (代表・瀬川 仁 019-622-8851)
S13	昭和13年3月卒業 京浜地区同級生 の集い	佐藤小太郎	〒232-0056 横浜市南区通町4-96 045-731-3062	昭和61年12月、横浜高島屋で 開催以降、特になし
S14	在京白聖五三会 (在京盛中五三会)	手塚 光郎	〒150-0013 渋谷区恵比寿3-31-17 03-3443-0552	現在は特になし
S18	十八年会	八重畑達男	〒173-0011 板橋区双葉町13-5 03-3963-1728	(在京は特になし)
S19	特になし	館下 忠夫	〒277-0074 柏市今谷上町19-48 0471-74-7337	全国一本で同年会を開催
S20A	悟空会	晴山 節男 國安 輝久	〒353-0004 志木市本町5-17-2-516 048-473-7607 〒270-1147 我孫子市若松165-10 0471-82-7705 kuniabik@mb.infoweb.ne.jp	年末、年始 在京同年会
S20B	白聖60会 東京支部	萬 藤五郎	〒251-0045 藤沢市辻堂東海岸2-17-3 0466-36-1214	同期会 随時(本年同期会開催予定) ※昨年5月、盛岡にて古希同期会開催
S22 (第61回生)	在京無一会	鎌田 潤一 井上 鉄夫	〒238-0023 横須賀市森崎3-17-13 0468-34-0262 〒101-0024 千代田区神田和泉町1-6-16 ヤマトビル603 井上税務会計事務所 03-3862-5791	毎年4月頃同期会開催 ほか ※今年は4月7日(金)開催予定 (H10.3.5 繋温泉で1泊にて卒 業50周年記念無一会を開催)
S23- 24	在京白聖23-24会 昭和23年(盛岡中学) 昭和24年(盛岡一高)	佐々木則雄	〒351-0104 埼玉県和光市南2-1-14-107 048-463-8488	今年は定期懇親会「三木会」(奇数月の第3木曜日午 後6時から)をすきや橋「大雅」にて開催 ※昨年は 三水会(偶数月第3水曜)として昼食会を開催
S25	在京白聖25会	幅館 悠 内田 禎二	〒193-0833 八王子市めじろ台4-13-5 0426-65-5057 〒215-0005 川崎市麻生区千代ヶ丘4-7-6 044-966-9081 uchidatj@yoyogi.ycc.u-tokai.ac.jp	毎年1回4月 総会開催 (場所は通常 東郷記念館) ※在京白聖25会々長は及川昭伍
S27	盛中LB会	佐々木 實 酒井 洋司 藤原 禎助	〒236-0005 横浜市金沢区並木2-7-5-501 045-784-2549 〒338-0811 浦和市白鍬762-2 0488-54-3071 〒176-0013 練馬区豊玉中3-19-5 03-3948-3222	例会 春・秋2回(他随時) ※盛岡では毎年11月第3土曜日 に同期会総会を開催
S28	在京白聖28会	秋濱 彰	〒253-0021 茅ヶ崎市浜竹4-8-28 0467-82-9246	毎年春に同期会開催 ほか
S29	在京(白聖) にくまれ会	興津 維信 小林麒一郎	〒162-0055 新宿区余丁町12-27-403 03-3353-3288 〒330-0834 大宮市天沼1-184-2 048-642-4743	定例新年会 毎年1月最終土曜日の午後。 ゴルフ会(年3回)、麻雀会(月1程度)。 ほか3年に1回 盛岡(代表幹事 下田啓 太郎)にて「にくまれ会大集合」開催
S30	関東白聖 30年会	代表幹事 佐藤陽二 幹事遠畑浩紀 村井礼子 村谷真三	〒330-0036 大宮市植竹町1-793-7 048-651-6350 〒331-0064 大宮市佐知川524-3 048-624-5812 〒182-0026 調布市小島町2-29-9-202 0424-85-5803 〒345-0835 埼玉県宮代町宮代台3-5-3 0480-33-1339	例会 毎年11月第2金曜日18時 ゴルフ同好会(年3回のペース) ほか

※在京白聖会事務局に「〇〇年卒業者だけの集まりはないか。連絡は誰にすればよいか」といった問い合わせが、時折寄せられます。そこで今回、急遽調査し、回答のあった年次分を掲載いたしました。ご覧のとおり、まだ空白の年次がたくさんあります。今回は間に合わなかったが年次の組織がすでにある、あるいは新しく名称や連絡先が決まったという年次は、事務局までお知らせください。

私は、昭和三十五年(一九六〇年)に盛岡一高に入学した。日本がいわゆる「一六〇年安保」の混乱を経て、その後の高度経済成長へと続く時代の節目に、一高に在籍したわけである。

入学の動機は、とりたてて将来の確たる目的や大志があったわけではない。ただ年少の頃から、啄木や賢治を身近に感じ、一方、米内光政や板垣征四郎などの軍人、原敬、新渡戸稲造といった岩手の先人達に子供ながらに誇りを抱いていた。将来は人のため、国のためという思いが何となくあったことを記憶している。

みなぎる自由の気風

在学中、私が影響を受けた二つのことがある。一つは「安保」である。同級生の一人が、「われわれも行動(デモ)に参加すべきだ。そのための離席を学校は認めるべきだ」と主張した。政治に関心の薄かった私にとっては、そういう同級生の存在自体が驚きであった。

二つ目は、先輩の「講演」である。その一人は、アイヌ語研究のために北海道に渡ったときの模様を語った金田一京助博士である。天職への熱い情熱を静かにやわらかに話をできる人がいるものだという強烈な印象を受けた。また一人は、以前本紙

を飾った当時早大院生の玉澤徳一郎先輩(現・農林水産大臣)である。記憶では、世界総道徳運動だったと思うが、これぞ弁論部という演説で、若いエネルギーの塊がそこにあった。

同窓先輩に著名人が多数おられる一方、当時は無名の一学生を講師に招く、そういう度量と気風が一高にはあった。このように、私にとっては、「こんな自由があったのか」と思える出来事が年に一、二度あった。



トップよ、大志を

ベルリンの壁が崩壊して以降、冷戦時代とは異なった意味で、世界各地で紛争や事件、事故が続いている。日本は戦後五〇余年を経て、経済の発展、女性の地位向上、多国籍企業の進出等、在学時は予測しえなかった変化を体験・実感できる年代となった。そんな世代でも近年の変化のスピードには目を見張る。昨今は、日本の経済や社会を構成するしくみが根底から崩壊して

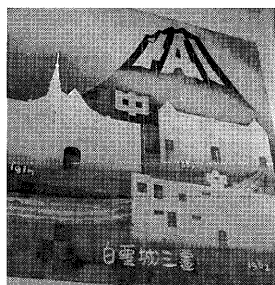
いく様を感じる。未来が見えない。一言でいえば、未来が見えない。

それだけに、国でも企業でも地域でもトップ(指導者)の役割が重要である。わが母校は、数多のトップを輩出してきたし、輩出し続けている。

私が奉職している農協団体でも、この三〇年間で一万あったJA(農協)が、合併により一五〇〇ほどになった。なかには、実質的に倒産JAを救済するた

二十一世紀の白聖に期待!

藤村征夫(昭和三十八年卒)



新校舎の玄関を飾る九谷焼陶板の白聖城三遷の図(写真/佐藤泰久氏=42年卒=写す)

ある。その中で、とくにトップには、時代を見通した志なりビジョンが求められている。

戦後五〇年、わが国を構成した主軸は経済であった。しかし、

めの合併もある。そのたびに、現場では「何のための合併か」「JAは本当に必要か」を自問しながら広域合併を実現している。そうした組織の再編に関わ

っている私の目から見ると、うまくいっているJAに共通していることは、トップ(組合長)のビジョンが明確で、それをミドル(管理者層)が着実に実行できる、ことである。食管法な

どの制度を基本に事業運営してきたJAにおいても、その仕組みが根本から見直される時代で

五〇年を経て、どんなに優れた仕組みも伝統も、絶えざる改革なしには、もろくも崩壊する。

新々校舎に寄せて

一高の新校舎が完成したという。私の世代からは新々校舎になる。すでにこの紙面でも紹介されているが、後輩の中にも世界に通用する若手文化人が何人かおられる。

同列で比較するのはムリがあるが、JAグループの全国組織では、農家の扱う飼料、肥料、

石油などの原料調達のために、海外に事業所を持っている。その駐在経験者には、「現地の人と真に友達になれる壁がある」という共通の認識がある。例えば、休日に東京本社の出迎えをするような人は友にできない。：と。文化や自分について確たる意識がないと、私もそうだが、この壁を乗り越えられそうにもない。

その意味で、紙面に見る後輩たちがまぶしく見える。新たな時代にふさわしい大志を抱いた人材が、母校から一人でも多く輩出することを期待する。そして、新校舎がその土壌や環境を育んでくれることを願っている。

(全農 常任幹事)

あとがき

今回、各年次組織の調査の回答と一緒に寄せられたメッセージの中で、昭和二十七年卒の浅沼一造さんから寄せられた「盛中L.B会」の由来が、戦後の学制改革の混乱期についていたへんわかりやすく解説していただきましたので、ご紹介させていただきます。これで、戦後生まれには不思議でしょうがなかった昭和二十年から二十四年頃までの同窓会名簿の卒年の謎がようやく解けました。浅沼先輩、本当にありがとうございました。